

令和2年度中小企業の情報セキュリティマネジメント指導業務

**【別紙2】 セキュリティマネジメント
指導事例集**

2021年6月

独立行政法人情報処理推進機構

セキュリティセンター 中小企業支援グループ

指導事例一覧

No.	地域	指導先企業・団体名	業種	指導専門家	事例タイトル
1	新潟県	株式会社鈴木コーヒー	卸売・小売業	武内 正一郎	小売・卸売業のECとDX推進に伴うセキュリティ対策の強化
2	東京都	株式会社 primeNumber	ITサービス業	村瀬 一志	事業拡大を見据えた情報セキュリティ対策の強化
3	東京都	小津社会保険労務士 事務所	社会保険事務	村瀬 一志	業務のIT化に伴う個人情報管理の改善
4	愛知県	名東技研株式会社	技術サービス業	一ノ瀬 誠	派遣先で業務を行う社員の情報セキュリティ教育
5	岡山県	倉敷商工会議所	商工会議所	大久保 茂人	会員事業者の機密情報を扱う責任を再認識
6	岡山県	社会福祉法人天成会	福祉サービス業	大久保 茂人	医療・福祉業におけるプライバシー情報の適切な管理
7	広島県	株式会社ナガト	製造業	瀧川 智昭	サプライチェーン上の必須要件となる情報セキュリティ対策
8	大分県	株式会社九州機設	技術サービス業	深水 伸二	情報セキュリティの実装には対外的宣言が重要

新潟県

事例No.1

業種	卸売・小売業	小売・卸売業のECとDX推進に伴うセキュリティ対策の強化
従業員数	51～100人	
資本金	5千万円以下	
推進担当者	株式会社 鈴木コーヒー	
指導専門家	佐藤 俊輔 様（代表取締役） 武内 正一郎（情報処理安全確保支援士、ITコーディネータ）	

■ 企業・団体紹介

コーヒー・紅茶の加工販売を基軸として、新潟を拠点に食文化の発展のための新しい価値創造と情報発信を行っている。直営店ではカフェとしての営業のほか、コーヒー豆、コーヒー器具、ギフト等を取り揃え、オンラインストア（EC）から全国に向けて販売を行っている。

■ 参加の動機

事業の生産性を高めるため、オンラインストアの構築や受発注業務の電子化等、経営者としてDX*を強力に進めてきたが、情報セキュリティ対策が十分かどうか不安があった。デジタル化された顧客データが蓄積されていく中で、社内からもセキュリティ対策強化の必要性の声があがりはじめていたところ、本事業が行われることを知って申し込んだ。

*DX（デジタルトランスフォーメーション）はITの活用を通じて、ビジネスモデルや組織を変革し、競争上の優位性を確立すること。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- DX推進にあたり、これまでシステムやデバイス導入を優先してきた。今後は、導入したITを活用する上でのセキュリティ対策を強化する必要がある。
- BYOD*の取組みも導入していたが、社員のセキュリティ意識にも個人差があるので、教育等の対策も必要ではないかと感じていた。

*BYOD（Bring Your Own Device）の略。個人のプライベート端末を使用して業務を行うことで、テレワーク導入準備や運用コストを抑える効果がある。

専門家指導のポイント

■ 「チョコっとプラスパスワード」を利用して改善

自社診断の結果から、社員にはパスワードに関する認識が不足していることがわかった。会社として導入したクラウドサービスのIDとパスワードの管理はできていたが、それ以外のITリソースについては個人任せとなっているために対策が不十分。改善をはかるため、IPAサイトに掲載されている「チョコっとプラスパスワード」を利用し、社員に対して業務上で使用するパスワード設定を安全に運用するよう周知を図った。

■ 業務で活用するIT機器の取扱いルールを整備

業務で活用するIT全般（無線LAN、パソコン、タブレットなど）について、利用ルールが未整備となっていた。BYODも導入されているが、業務に利用して良い個人所有デバイスの条件や、社内LAN接続時の注意、会社で貸与した機器の取扱いルールなど、網羅的に整備するよう指導を行った。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- 今回の指導を受けて、IT・セキュリティ担当者を配置することにした。策定したルールの遵守についての実行施策を担ってもらう。半年から1年はかかると思うが、経営者として自らも四半期に1回はレビューを行い、社員への着実な啓発活動等を実施していきたいと考えている。
- セキュリティを強化することで、業務の生産性が悪くなる可能性があるのではないかと考えていたが、指導を受けて、バランスが重要であることがわかり、両立するためのノウハウを得ることができた。

■ ご意見・ご感想

問題の可視化と整理が非常に役立った。指導専門家の方は、情報処理安全確保支援士に加え、ITコーディネータとしての知見も保有されているため、今後もITの活用や情報セキュリティに関して継続した支援を依頼した。

東京都

事例No.2

業種	ITサービス業	事業拡大を見据えた 情報セキュリティ対策の強化
従業員数	11~20人	
資本金	1億円~3億円以下	
推進担当者	株式会社primeNumber	
指導専門家	村瀬 一志 (情報処理安全確保支援士)	

■ 企業・団体紹介

汎用型のクラウドサービスを活用したソフトウェアの開発・運営、また、データエンジニアリングの知見を生かしたコンサルティング支援やシステム開発を行っている。従来はエンジニア系の採用しか行っていなかったため、情報セキュリティに関しても一定の知識を有している社員ばかりだった。最近のDX化の流れから支援依頼も増加しており、事業拡大に向けてエンジニア以外の人材確保も必要となってきた。

■ 参加の動機

大手企業とも取引があるが、そういった上場企業ではどのような情報セキュリティリスクがあり、対策を行っているのか、将来、自社の上場の可能性も見据えた上で専門家から情報を得ておきたいと思った。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- 今年度からエンジニア以外の社員を採用した。そのため、社員がビジネスマンとして最低限守るべきルール等を明文化して配布するといった対策を行った。しかし、さらに社員や拠点を増やしていくことを考えた場合に、このままで良いのか不安を感じていた。
- コロナ禍の以前からテレワークの基盤はできていた。
クラウド型のシステムを活用しているため、物理的な対策は問題ないと思うが、在宅に限らず気分転換にカフェ等で作業している場合もあるようで、何等かの基準やルールが必要ではないかと感じていた。

専門家指導のポイント

■ 内部統制の一環として管理

情報セキュリティレベルは高い企業であったので、他社ではどのような事故が発生し、どのように対処したのか、具体的な事例を多く伝えるようにした。事故の原因には悪意のある行動の場合もあり、事業拡大に向けては、情報セキュリティに関する規程を作成して教育するだけでなく、内部統制システムの一環として具体的な対策を構じる必要がある。

■ 社員教育の充足

情報セキュリティ基本方針、規程等は一通り揃っているが、これから新卒採用を定期的に行っていくような場合には、入社時に手厚い教育を行わなければ、情報セキュリティ意識が低い若手社員が増えていく。テレワークが増えることも踏まえ、事故を防ぐための具体的な教育テキスト（マニュアル）などを新たに整備し、既存社員にも定期的にチェックする機会を設けることで、社員の意識向上を図ることができる。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- 人や拠点が増えていく場合でも、クオリティを保ったまま情報セキュリティ対策を行っていくにはどうしたらよいか、具体的な情報を得ることができた。
- 業務委託先との情報共有などについて契約上の押えはしており、問題も出ていないが、運用の実効性を高めるには属人性を極力少なくしていくべきことに気付いた。委託先の改めでの精査に加え、実行計画に則って、発見した改善点を反映した仕組みづくりを行っていきたい。

■ ご意見・ご感想

指導業務の成果を社内報告したところ、役職員の情報セキュリティ対策の重要性の認識が深まった。有用なものであれば有償でもよいので、社員への情報セキュリティ教育をスポット的に専門家に依頼することを検討したい。

東京都

事例No.3

業種	社会保険事務	業務のIT化に伴う 個人情報管理の改善
従業員数	1~5人	
資本金	5千万円以下	
推進担当者	小津 理人 様 (所長)	
指導専門家	村瀬 一志 (情報処理安全確保支援士)	

■ 企業・団体紹介

社会保険労務士として、主に企業からの業務委託で、労働・社会保険等の法令に基づく申請書や帳簿書類の作成・提出に係る事務代行や、労務管理、社会保険に関する事項の相談や指導を行っている。以前は情報のやり取りを書類で行うことが多かったが、現在は、OneDriveによるファイル共有や、顧客指定のツール（LINEやメール）を利用するようになっている。

■ 参加の動機

給与計算等の委託を受けるため、個人の住所や生年月日のみならず、収入データも預かっている。事務所としてIT化が進み、セキュリティ対策のある業務アプリケーションやクラウドサービスを活用しているが、現状のままで本当に大丈夫なのか、専門知識を有する第三者に確認してもらいたかった。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- 仕事が増えた場合には外部に委託することもあるが、長年の付き合いから信頼関係でお任せしている。しかし、お互いに馴れ合いになっているところにリスクがあるのではないかという心配があった。
- 所内の職員にセキュリティ教育は特に行っていない。クラウドサービスを活用するようになり、業務用パソコンもセキュリティ対策したものを支給しているが、最近ではテレワークすることも多く、運用面での不安は感じていた。

専門家指導のポイント

■ アカウントとパスワードの管理の改善

クラウドサービスなど利用する場合には、データにアクセスするためのアカウントとパスワードの管理が重要となってくる。今回のケースで確認したところ、所内では同じアカウントを共有利用して情報にアクセスしていることが問題だった。万が一の事故発生時の対応も踏まえ、アカウントは職員ごとに作成し、パスワードは8桁以上で定期的に変更させるなど運用ルールが必要である。

■ 所外との情報のやり取りにおける注意

所外の社労士に業務の一部を依頼することもあるようだが、データの受け渡しにクラウドサービスを使う場合には、委託先ごとにフォルダを作り、委託先のユーザーアカウントとアクセス権の管理が必要。また、現在はコロナ禍によってリモートでの打ち合わせが多いと思うが、外部からの来客時のルール（入室エリアの制限等）も作って所内でのセキュリティ意識を高めてもらいたい。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- 社労士が扱うのは個人情報の中でも特に機微な情報であり、専門家の支援によって「2つ星宣言」を取得することは既存個客にも事務所としての信用を高め、また今後の新規顧客の獲得にも有効である。
- コロナ禍によって、顧客企業のほうにテレワークが増えた。それに伴って、在宅からの情報アクセスに関する規程等を盛り込んだ就業規則の改訂などの相談も増えている。今回、本所が専門家から受けた指導は、本来業務の社労士業務にも活かすことができそうである。

■ ご意見・ご感想

事例を交えて大変分かりやすく教えていただき、不足している対策を補うことができた。顧客からは社労士の仕事以外の相談を受けることもあり、同じ士業として、情報処理安全確保支援士を紹介する機会もあると考えている。

愛知県

事例No.4

業種	技術サービス業	派遣先で業務を行う 社員の情報セキュリティ教育
従業員数	21～50人	
資本金	5千万円以下	
推進担当者	片桐 達司 様（代表取締役） 大橋 類 様（ITソリューション部）	
指導専門家	一ノ瀬 誠（情報処理安全確保支援士、中小企業診断士）	

■ 企業・団体紹介

車輻製品、産業機器の設計開発、およびITソリューションとして、業務改善からシステム開発・運用保守まで幅広い技術サービスの提供を行っている。社内で実施する受託業務もあるが、お客様先に技術者を派遣し、設計・開発業務を支援することが多い。そのため、社員は主に即戦力として活躍できる技術力を持った人材を中途採用している。

■ 参加の動機

大手のお客様からは、当社におけるデータの取扱いについて問われるアンケート調査が行われる。社員は中途採用者が多いので、情報セキュリティ意識や知識にはバラツキがあった。業務は派遣先で実施していることが多いものの、社内において、情報セキュリティに関する体系的な管理・教育が整備できていないため、本事業に参加することを決めた。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- 昨年、社員が派遣先のルールに基づくテレワーク中に、セキュリティ事故を起こしてしまった。会社としては、事故が起きた後の対応が重要であることも実感し、体制整備と社員への情報セキュリティ教育が必須だと感じた。
- 社内のインフラの取扱いに関するルールが整備できていなかった。また、機密レベルは制定していたが運用がうまくいっていなかった。サーバーの入れ替えを予定しているため、運用を含め、社内インフラ活用ルールの再整備が必要だった。

専門家指導のポイント

■ 属人的な運用部分の強化

人材が大きな経営資源となっている業態なので、教育で解決できることが多い。ファイル転送サービスの利用や、預かった情報の社内サーバーでの保管など、社内で受託業務を行うメンバーが各々に行っている、取引先との情報のやり取りに重点を置いたルールを策定し、全従業員への教育によって徹底を図るよう指導した。社員はテレワークを含めて派遣先のルールに従って業務を行うことが多いが、自社のセキュリティ管理が整っていることでお客様からの信頼も増し、より高い意識をもって社外で仕事ができるのではないかと思います。

■ 社内インフラの取り扱いをルール化

お客様から預かったデータも機密レベルに従った管理が必要。社内サーバーで管理しているため、レベル付けに応じ、フォルダ階層ごとのアクセス権設定等のルールも策定した。その他、社外持ち出しパソコンの使用ルール、シンククライアント化なども盛り込み、社内インフラのセキュリティ強化を図った。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- 成果物として、セキュリティ事故を発生させないための業務上必要なルールの策定や教育体制が整ったが、事故発生時のエスカレーション体制も規程に盛り込み、万が一の事故発生時にも備えができたと思う。
ただし、対応手順の策定までは時間がなかったので、継続検討したい。
- サーバーの入れ替えタイミングにこのような指導を受けることができたので、新しく策定したルールを適用し、早々に運用開始することができた。

■ ご意見・ご感想

指導成果を受けて、策定したルールが定着していくよう社員教育の強化を図り、会社としても、さらにお客様からの信頼を得るために、PマークやISMSの取得を目指して推進していきたい。

岡山県

事例No.5

業種	商工会議所	会員事業者の機密情報を扱う 責任を再認識
従業員数	21～50人	
資本金	—	
倉敷商工会議所		
推進担当者	船橋計哉 様（中小企業相談所指導課 課長）	
指導専門家	大久保 茂人（情報処理安全確保支援士）	

■ 企業・団体紹介

商工会議所法に基づき、地域経済社会の振興・発展や、社会福祉の増進に資する事業を行っている。倉敷商工会議所の管内には11,000以上の事業所があり、うち3,500事業所ほどの会員で構成されている。労務・税務・金融など、あらゆる経営課題に関する無料相談を受け付けているほか、経営に役立つセミナーやイベントの開催によって、地域事業者の支援を行っている。

■ 参加の動機

専務理事から、電子メールの添付ファイルのパスワード設定運用について問われたことをきっかけに、情報セキュリティの対策ができていないことに気づいた。そのような状況のときにタイミングよく本事業が実施され、商工会議所も支援対象となることを知って申込みを行った。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- 紙に出力された会員事業者との補助金関係のやり取りを電子メールで行うことが多くなり、申請関係書類を添付ファイルで送ることが増えたが、申請書の内容には企業の機密情報も含まれているにもかかわらず、電子メールでやり取りを行うにあたっての運用ルールを設けていなかった。
- 情報のうち、例えば、融資相談に関する書類は機密情報として鍵のかかるキャビネットに保管しているが、その他にどういった情報を機密情報扱いにするのか、職員の判断に任せている部分があった。

専門家指導のポイント

■ まずは機密情報を定義する

商工会議所の業務には、会員への情報提供、補助金対応、経営相談等がある。例えば補助金申請を受付ける場合、申請書類だけではなく、相談窓口でヒアリングした口頭情報も含め機密である。情報を扱うのは、職員のほかにもアドバイスを行う専門家もいるので、誰がどのように情報入手し、その情報にアクセスが必要なのは誰なのか、機密情報の定義を整理することから始めた。

■ テレワーク導入の可能性に備える

コロナ禍により、商工会議所では職員にテレワークを導入する可能性も検討しているとのこと。テレワークは、自宅の個人パソコンで業務を行うことになるため、情報の電子化を進めると同時に、自宅での情報の取扱いに関して、人的、物理的にも追加のセキュリティ対策が必要となる。今回の活動で、職員についてもセキュリティ意識が高まったといえるが、テレワーク導入も見据えた関連規程の整備をターゲットにして、実行計画も立案した。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- 機密情報の定義を整理する中で、会員の事業存続にかかわる、重大な機密情報を取り扱っているという、責任感をあらためて認識できた。
- 今回の指導で、紙と電子の機密情報を扱うにあたって必要なルールが明確になったので、次のステップとして職員に教育・啓発していきたい。今後、テレワークが導入されることになっても対応できると思う。

■ ご意見・ご感想

中小企業経営者からの相談は、金銭面での相談が多くを占めているが、会議所の会員には、情報セキュリティの重要性についてもっと啓発していくべきと気付いた。言行一致の活動から、説得力をもって会員に周知できるとともに、必要に応じて情報処理安全確保支援士を紹介したい。

岡山県

事例No.6

業種	福祉サービス業	医療・福祉業における プライバシー情報の適切な管理
従業員数	51～100人	
資本金	5千万円以下	
推進担当者	相澤 博康 様（管理部 事務長）	
指導専門家	大久保 茂人（情報処理安全確保支援士）	

■ 企業・団体紹介

特別養護老人ホームのほか、ショートステイやデイサービスなど地域に根差した介護サービスを運営している。また、医療・介護、生活支援に携わる専門職員が、地域の老人会やサロン会、各種イベント等に出向き、出前講座や相談を行うなど、様々な地域活動も行っている。

■ 参加の動機

職員には個人情報等の名前の入った書類を机の上に置かないよう周知したり、保管場所には気を付けていたが、パソコンに入力された情報の取扱いについては正直なところあまり意識していなかった。インターネットの接続にはUTM*を導入、パソコンはウイルスソフトを入れて対策しているが、法人としてIT活用のルール作りは行っていなかったところ、今回指導をお願いした情報処理安全確保支援士から、運用上の対策強化の勧めを受けて参加を決めた。

*Unified Threat Managementの略で、複数のセキュリティ機能を1つに集約して運用するネットワークセキュリティ対策ツール。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

入所者およびその家族に関する個人情報は、事前に書類で入手した事項をパソコンにも入力しているが、プライバシー情報（家族関係、生い立ち、背景）等は職員が聞き取りを行った際のメモ等の取扱いは曖昧。職員には、利用者のプライバシー情報をうっかり外で口外しないよう戒めてはいたが、基本的には個人の意識任せとなっていた。

専門家指導のポイント

■ トップダウンで情報のレベル付けと台帳管理を行う

現状について診断を行ったところ、職員のセキュリティ意識にはバラツキがあることがわかった。情報の取扱いについて全職員が同じ認識で対応が図れるよう、法人として機密性のレベル付けを行い、台帳管理を行うよう指導した。

紙の情報は、メモを含み管理から廃棄（溶解処理）までの取扱いルールを策定し、全職員に周知させることが必要。情報セキュリティ対策は、現場だけに任せず、トップダウンで進めることが重要である。

■ 電子化された情報は、アクセス権の設定をルール化

面談で得た情報や書類で入手した情報は職員がパソコンに入力し、ファイルサーバーでも管理されている。経理情報などは一部の職員しかアクセスできないよう設定されていたが、介護職員等が利用するエリアについても、日々の業務報告とプライバシー情報は明確に分ける等、アクセス権設定のルール化が必要である。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- これまで職員の職務意識に依存していたが、自社診断シートで調査を行ってもらったところ、「実施していない」「わからない」の回答も多数あって驚いた。介護の現場に情報セキュリティに関する認識や知識が不足しており、法人としてリスクがあることに気付くことができた。
- 台帳管理により、個人情報の管理をより厳格に実行できるようになった。また、職員への教育は、各リーダーにセキュリティ管理の業務を持たせて組織として意識を高めるようにしていきたい。

■ ご意見・ご感想

現在、介護記録の電子化も進めていることから、IT化の推進も含めて情報処理安全確保支援士に相談して進め、定期的なリスクチェックもお願いしたい。

広島県		事例No.7
業種	製造業	サプライチェーン上の必須要件 となる情報セキュリティ対策
従業員数	201～300人	
資本金	3億円超	
推進担当者	安岡茂夫 様（業務部次長） 大平仁美 様（業務部）	
指導専門家	瀧川 智昭（情報処理安全確保支援士）	

■ 企業・団体紹介

地域密着（広島）の熱処理のデパートとして、金属材料や表面処理のほか、各種機械部品類の製作及び切削加工・研磨加工といった事業を行ってきた。現在は、大手自動車メーカーの品質優良認定工場にも認定され、グローバルな事業展開を図っている。

■ 参加の動機

サイバーセキュリティを危惧する取引先の手自動車メーカーからは、定期的に当社がどのようなセキュリティ対策を行っているのか問合せを受けていた。取引先に信頼して取引を継続してもらうためには、対策を強化する必要性が生じていたところ、お世話になっている中小企業診断士の方から、本事業のことを教えてもらい参加を決めた。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- 業務部は、総務・人事・経理業務のほか、衛生、環境対策等、幅広く担当しているため、IT関連までの対応が難しく、離れた9か所の工場のセキュリティ管理がなかなか行き届かない。情報セキュリティに関する知識のない従業員の行動に、情報漏洩リスクがあるのではないかと感じていた。
- 環境対策の一環として紙のリサイクルを推奨しているため、社内文書は裏紙に印刷して使用することがある。環境対策にはなるが、セキュリティ面で一般ゴミに混入して情報漏洩につながるのではないかと不安をもっていた。

専門家指導のポイント

■ 現場目線で取組めるセキュリティ対策

上層部でルールを決めても現場では具体的に行動できない懸念があるため、現場で実行できる対策検討を進めた。策定したルールは、工場にも馴染みやすい形式で伝えるため、IPAで公開されているひな型をベースとした「情報セキュリティハンドブック」の作成を支援。例えば、懸念されていた裏紙の利用に関しては、紙の廃棄ルールの一環として「個人名や金額の記載があるものは溶解処理に分別する」等、実行しやすい例を挙げて説明するよう指導した。また、社員教育を行うときは、専門用語（カタカナ）を極力さげ、クイズ形式等を取り入れることも提案した。

■ 優先順位をつけて実行していくこと

策定した改善項目は、緊急度、重要度、難易度の観点について1～3点の点数を付け、それらを掛け算して定量的に重み付けを行った。数字の大きいものを優先したり、難易度の低いところからやっていくよう実行計画を作成した。

指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- どこから手を付けてよいかわからなかったが、社内体制と現場対策の両面の課題が明らかになり、また、対策の優先順位を付けてもらったので実行しやすくなった。トップとボトムの両輪でセキュリティ対策を本格的に推進する風土ができたと思う。
- 「情報セキュリティハンドブック」を利用して、懸念事項であった、各工場働く従業員への情報セキュリティ教育を強化することができた。

■ ご意見・ご感想

セキュリティ対策を強化したことで、取引先企業からの信頼度をアップするだけでなく、信頼性の高い企業として人材採用活動の後押しにもなると考えている。本事業の次のステップとして、対策の実行度合いを専門家が監査してくれるような支援事業があればありがたい。

大分県		事例No.8
業種	技術サービス業	情報セキュリティの実装には 対外的宣言が重要
従業員数	51~100人	
資本金	5千万円以下	
推進担当者	由良 信明 様（総務課 課長） 中井 健太郎 様（総務課）	
指導専門家	深水 伸二（情報処理安全確保支援士）	

■ 企業・団体紹介

創業以来取り組んでいる石油分野をはじめとした化学工業の機械・機器の設計に加え、製鉄や一般産業機械、装置、設備の設計・製図も行っている。技術者の派遣も行っており、現在さまざまな業界の中で、社員が開発プロジェクトの一員として活躍している。

■ 参加の動機

本事業の推進者である担当者が中途採用で入社し、IT化の専任者として活動してきたことから、予期しなかったコロナ禍でもテレワークがスムーズに導入できた。また、セキュリティに関する物理的な面では対策を行っていたが、会社としてのポリシーや規程が整備できていなかったため、メールで事業を知ってニーズに合っていたので参加した。経営者にセキュリティ対策の重要性をより理解してもらうためにも、外部の指導は良い機会になると考えた。

■ 情報セキュリティ上で感じていた課題

- 取引先に大手企業が多く、セキュリティに関する研修や情報提供を受けているため、セキュリティ意識は比較的に高いと認識していたが、会社としても、対外的にポリシーを示すことが信用上でも必要であると感じていた。
- CADを使った設計業務をテレワークで行う際には、デスクトップパソコンを車で持ち帰っている。それらの機材は、クラウド上で資産管理ソフトを動かして物理的管理を行っているが、運用上の管理・対策に不安があった。

■ 専門家指導のポイント

■ 技術面でも踏み込んだアドバイス

会社としてのポリシーや規程といった、対策の基礎となる部分が整備されていなかったため、この事業の標準的な成果物がピッタリだった。その他に、技術面でのお話を伺ったところ、社内NW構成の見直しや、VPN接続の多要素認証化を進めたいとのことだったので、NW構成概要図の更新案や、多要素認証化についての具体的な手順に関する資料の提供を行った。

■ 経営者への課題共有

自社診断を実施したところ、基本的対策、従業員としての対策はできていたが、組織としての対策については社内での認識にバラツキがあることがわかった。

担当者が感覚的に捉えていた会社としての体制や対応に課題があることについて、外部の目で見える化して経営者に示し、課題共有を図ることで、会社として情報セキュリティ体制強化を進めることに理解を得られることができた。

■ 指導先企業からのコメント

■ 専門家指導の成果

- 事業で提示されていた標準的なカリキュラムによって、基本ポリシー、関連規程の整備といった成果物がまさに求めていた成果であった。必要だったものが全て揃えることができた。その他にも、専門家からいろいろと教授してもらえたので、たいへん満足している。
- 「会社として宣言」、これができたことが成果としてとても重要だったと思っている。経営者の情報セキュリティに対する理解が深まったことも、対外的な信頼の向上につながると考えている。

■ ご意見・ご感想

社長への説明など、指導以外もサポートしてもらうことができた。社内の意見をまとめるために外部コンサルの力は有効であった。また、今回の成果によって、社員のセキュリティ意識を高めることにもつながると考えている。